

# 1 1 特別支援学校高等部の教育について

## ■はじめに

近年、障害のあるなしやその他の個々の違いを認め合い、様々な人々が生き生きと活躍できる「共生社会」を実現するための取組が進められています。

障害のある生徒の教育については、それぞれの生徒自身のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するための基盤となる生きる力を培う教育が行われています。併せて、障害のある生徒と障害のない生徒とが交流及び共同学習等を通じて、相互に理解し合う取組も進められています。

各特別支援学校の高等部では、個別の教育支援計画を作成し、保護者や関係機関（福祉、医療、保健、労働など）との連携・協力を進めるとともに、生徒一人一人の教育的ニーズに対応した個別の指導計画に基づく授業を行っています。

また、卒業後の職業的な自立を促進するため、障害の特性等に応じた多様なキャリア教育や進路指導を行っています。特に、生徒の職業観や勤労観を育成し、学校生活から社会生活への円滑な移行を進める目的で、積極的に企業等における就労体験実習に取り組んでいます。



## ■障害の状態や特性等に応じた特色ある教育活動

### 視覚に障害のある生徒のために

視力や視野等の見る機能に障害のある生徒の教育を行う特別支援学校では、視覚障害を補うために諸感覚の発達を促し、知識や技能を高め、職業的自立を目指しています。また、視覚障害者のために開発された施設設備や教材教具を用い、長い伝統の中で培われた指導法により基礎学力の向上に努めています。

高等部では、本科と専攻科との一貫した教育を通して職業的技能の習得、習熟を目指しています。

【学校名（所在地）】  
盲学校（時津町）



### 聴覚に障害のある生徒のために

聴覚に障害のある生徒の教育を行う特別支援学校では、生徒の聴覚活用の力を最大限に伸ばし、一人一人に応じたコミュニケーション手段を用いながら、言語力やコミュニケーション力を高めて確かな日本語の獲得を目指し、基礎学力の向上に努めています。また、発達の段階等に応じて、生徒の保有する聴力の活用や読話、発音指導等の専門的な指導にも力を入れています。

高等部では、本科と専攻科との一貫した教育を通して職業的技能の習得、習熟を目指しています。

【学校名（所在地）】  
ろう学校（大村市）



## 知的障害のある生徒のために

知的障害のある生徒の教育を行う特別支援学校では、社会生活能力を高めるとともに、将来の生活に必要な知識や技能、態度等が身に付くように具体的な活動を通じた指導を行っています。特に、作業学習や就労体験学習などを通して、働く喜びや、自立への意欲を育てるように指導を進めています。

### 【学校名（所在地）】

佐世保特別支援学校(佐世保市)、  
佐世保特別支援学校高等部北松分教室(平戸市)、  
佐世保特別支援学校高等部上五島分教室(新上五島町)、  
島原特別支援学校(島原市)、虹の原特別支援学校(大村市)、  
虹の原特別支援学校壱岐分校(壱岐市)、  
虹の原特別支援学校高等部対馬分教室(対馬市)、鶴南特別支援学校(長崎市)、  
鶴南特別支援学校時津分校(時津町)、鶴南特別支援学校五島分校(五島市)、  
鶴南特別支援学校高等部西彼杵分教室(西海市)、希望が丘高等特別支援学校(諫早市)、  
川棚特別支援学校(川棚町)、長崎大学教育学部附属特別支援学校(長崎市)



## 身体に障害のある生徒のために

身体に障害のある生徒の教育を行う特別支援学校では、一人一人の障害の状態や特性などに応じて、高等学校に準じた教科等の指導の他に、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の指導を行っています。自立活動では、歩行や衣服の着脱等の日常生活動作の向上やコミュニケーションの力を育てる授業を行っています。近年、高等部卒業後は福祉サービスを利用する生徒の割合

が高い傾向にあります。企業が就労する生徒、専門学校や大学へ進学する生徒もいます。

### 【学校名（所在地）】

佐世保特別支援学校(佐世保市)、長崎特別支援学校(長崎市)、諫早特別支援学校(諫早市)、桜が丘特別支援学校(川棚町)

## 病気や身体の弱い生徒のために

医療や生活の管理が必要な生徒のための教育を行う特別支援学校では、病気の種類や状態に留意しながら医療機関と連携して、高等学校に準じた教育や主体的に健康の維持・改善に取り組むための自立活動の指導を行っています。また、効果的な学習や自具としてのICT機器を活用した学習にも力を入れています。

### 【学校名（所在地）】

桜が丘特別支援学校(川棚町)

